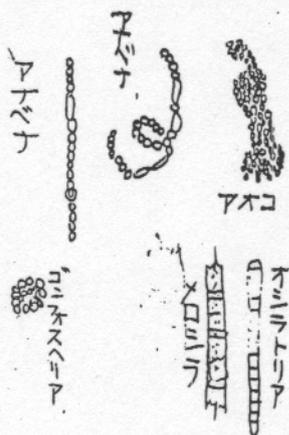


# かわら版 No.5

1975年 8月18日

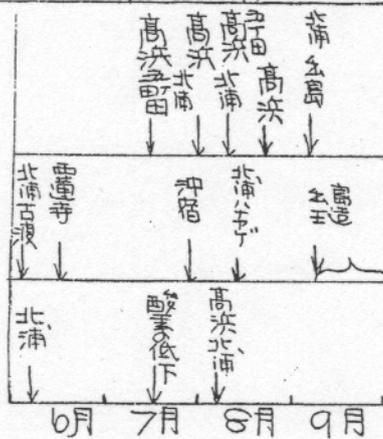
## 8月中旬までの水質

例年のごとく、今年も8月に入ると急にアオコが発生して来ましたが、肉眼では皆同じに見えるアオコも、実は、いろいろあって北浦ではアナバナが多く、この他、今年は琵琶湖のクロコシ等が見られます。駿河浦では湖心部ではコンボスヘリアが優占し、高津ではミシロシラス(アオコ)が優占して見えています。

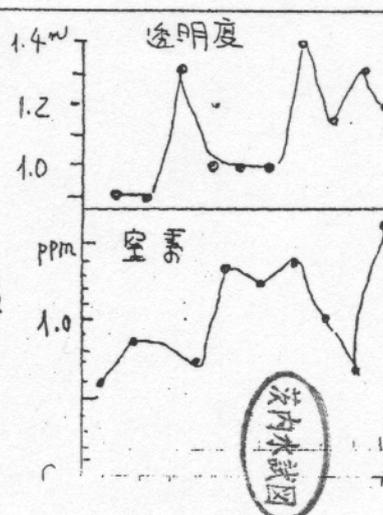


最近、このほかオニミドリリアが

はじめられて見えます。このように、いろいろな種類が、このように現れて来現するのは、わかりませんが、48年から今年までの3年間は、ほぼ同じ種類のプランクトン(アナバナ、アオコ、オニミドリリア)が現れて見えます。一方、酸欠の方も、今年も、これまで酸欠が低下する回数も少なく、極高も8月7、8日の二回だけで48年に比較すること、くわすかであるといえますが、酸欠の発生する時期は3年間、同じ頃のもので、今年も、オニミドリリアは7月23日(下通)頃(20日頃)に発生しましたが、その後、一時回復して見えます。オニミドリリアの高決入の酸欠で代表されるもので、8月4日頃から低



下しはじめの8月9日の朝の頃、もっとも低下し、10以下になる程の漁場も現れましたが、10日頃から回復し、見后感ではアオコがしぶりにあって、すこしく悪く思われますが、酸欠は良好です。しかし、酸欠前に(8月5日以前)に比較すると透明度も低下し、水中の窒素が湖心部で1.5ppmに達して見えます。酸欠量は、非常に多く、8月15日、田代沖で



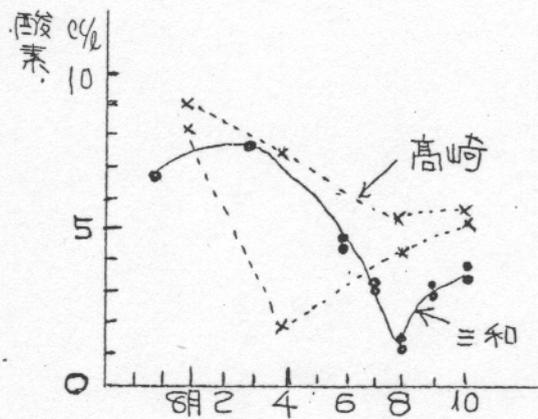
表、9.1下、4.6を示しています。これからは、アオコが増加する傾向を示すものと考えられます。適度な風が吹けば、程々に濃度とまりませんが、無風状態が続くと、酸欠が深刻し、死のおそれが出てくるでしょう。この時期は、48年の例で考えると、8月下旬に相当する頃ですが、南の風が吹くことが多く、この水質の悪化は、おこりやすくないと見えます。

茨木水試図

さて、赤田の難関は9月上旬のもので8年、9年ともに大きな被害をうけました。この時期は、プロシントンのかわる時期で、酸欠や病気があがりやすいシーズン中でもっとも警戒しなければならぬものです。

7月7・8日の酸欠

高崎では、日中でも酸素が0.8cc(7日11時)と低く、近年近くでは、0.2に低下してしましました。7日の夕方6時には0.6に回復しましたが翌朝の時には、1.1ccに低下してしましました。北浦でも高次とほぼ同じ頃から低下してはじめて、9日午前6時前後には、赤川から篠山の間に1.5%に低下してしましましたが、11日には回復してしましました。



7月29~30日

	透明度 (M)	酸素量 (PPM)	水温 (°C)	NH <sub>4</sub> -N (PPM)	COD (PPM)	塩素量 (PPM)	SS (PPM)	ケイ酸 N (PPM)	700Zn (mg/L)	PH	泥PH
木原	1.1	10.1 8.4	28.9 27.8	0.09	6.59	174	13	0.90	83	8.8	7.1
三又中	1.4	8.7 8.3	28.2 27.9	0.06	3.70	192	12	0.68	77	8.7	7.8
麻生	1.1	8.4 9.1	27.9 27.8	0.06	4.12	192	14	2.05	214	8.5	7.1
田伏	1.1	9.2 8.3	28.3 28.7	0.11	5.76	167	17	0.93	59	7.8	7.2
高崎	0.4	13.1 12.2	30.6 29.9	0.10	11.11	42	27	2.98	35	9.7	7.3
白浜	1.2	9.0 7.7	28.7 28.0	0.09	6.17	204	19	3.51	254	8.2	6.0
馬渡	0.9	10.8 10.3	29.7 29.2	0.11	5.76	132	21	2.27	188	9.3	6.7
高田	0.6	12.1 11.7	30.4 29.4	0.11	8.23	26	32	1.78	184	9.4	7.0

栗原の国産材  
カキ



約5千年



数万年



約10万年

